

市制施行から70年 いろいろな方に支えられ



今月号から令和3年3月号にかけて、市制施行70周年記念応援団の皆さんをはじめ、本市に縁のある方で、さまざまな分野で活躍してこられた方をご紹介します。

今月号では、応援団団長の花岡 伸和さんと、ロサンゼルスオリンピックやり投げ日本代表の真保 正子さん、ミス・ユニバース・コンテスト日本大会、準ミスの有本 千代子さんをご紹介します。

■花岡 伸和さん 市制施行70周年記念応援団 団長



富田林市出身の花岡さんは車いす陸上競技のトップアスリートであり、2004年のアテネパラリンピック車いすマラソンで日本人トップの6位入賞、2012年のロンドンパラリンピックでも5位入賞と輝かしい成績を収められています。

現在は、選手の指導のほか、日本パラ陸上競技連盟副理事として、パラスポーツの発展に取り組まれています。

今年2月に開催した同応援団委嘱式では、「子どもたちが未来に向かって目標や夢を持って大きくなっていく、そんな街を市制施行70周年をきっかけに残していきたい」と団長就任の意気込みを語られました。

「70年と言わず 100年200年の未来へGO富田林！」

■真保 正子さん

一口サンゼルスオリンピックやり投げ日本代表（故人）

今まさにやりを放たんとする凛々しい姿を見せてくれるこちらの女性は、やり投げの種目でオリンピックに出場した富田林市に在住された真保 正子さん。長野県出身で、日本代表として出場した1932年のロサンゼルスオリンピックでは、当時の日本記録を更新する39歳7ヶ月の記録で見事4位入賞を果たしました。



大会後、大阪に生活に移してからは、スポーツ指導者として活躍されました。本市にお住まいになられた後は、長きにわたって学校教育に携わり、大阪大谷大学（当時の大谷女子大学）の教授として教鞭も執られました。

■有本 千代子さん

一口ミス・ユニバース・コンテスト日本大会、準ミス（故人）

カメラに向かってポーズを決めるこちらの女性は、1955年開催の「ミス・ユニバース・コンテスト」日本代表選定大会において、準ミスに選ばれた富田林市出身の有本 千代子さん。

当時の新聞報道によると、富田林市民の大きな期待を背負って最終審査に挑んだことや、向かう先々で大きな歓迎を受けたことなどが掲載されています。準ミスに選ばれたのち富田林市に凱旋した際には、富田林駅では市民が列をなして歓迎し、当時の市長も駅まで出迎えに行ったという話もあります。



とき	中止となるイベントなど	問い合わせ	とき	中止となるイベントなど	問い合わせ
10月2日(金)	市戦没者追悼式	地域福祉課 (内線275)	11月	商工祭	商工観光課 (内線481)
10月10日(土)	じないまち四季物語「秋」後の雛まつり	商工観光課 (内線483)	11月末	とんだばやし健康市民フォーラム ※市制施行70周年記念事業	高齢介護課 (内線183)
11月14日(土) 15日(日)	公民館まつり ※市制施行70周年記念事業	中央公民館	11月末～令和3年1月末	金剛きらめきイルミネーション ※市制施行70周年記念事業	商工観光課 (内線483)
11月	市防災訓練 ※市制施行70周年記念事業	危機管理室 (内線9503)	12月20日(日)	市民マラソン大会 ※市制施行70周年記念事業	生涯学習課 〔☎(26)8062〕
11月	市農業祭 ※市制施行70周年記念事業	農とみどり推進課 (内線445)			

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、左表のイベントなどを中止します

MEET★とんだばやし

～認知症になっても笑顔で暮らせる富田林～

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすためには、地域の人々の理解が大切です。今後社会を担っていく子どもたちに、本との出会いから認知症に関心をもってもらうことを目的に「認知症の本を読もう！MEET★富田林コンクール」を毎年開催しています。昨年度の「感想文の部」最優秀賞の作品を紹介します。

『「ばあちゃんの笑顔をわすれない」を読んで』
上本 幸太さん（第三中学校3年（当時））

この本を読んで感じたことが三つあります。
一つ目は、介護をすることの難しさです。私には九十一歳になる曾祖母がいます。年に二、三回しか会えないのですが、数年前から物忘れが酷くなり、同じことを何回も言ったり、夢と現実の区別がつかなくなったりと認知症の症状が出てきています。してもらったことを忘れてしまい、してもらえないとイライラしたり、小さい声だと耳が遠いので聞こえず、大きな声で喋ると怒られているように感じたりと、介護している祖父母はととても大変そうでした。

二つ目は、高齢者をいたわることの大切さです。いつか自分も年をとって介護されるようになるかもしれないので、自分がこの立場ならどうしてもらいたいかをしっかりと考えて行動しなければならないなと思いました。

三つ目は、地域が一丸となって高齢者を支えることの重要性です。この本では、デイサービスと老人ホームでの介護について書かれており、「この町の人たちの福祉はこの町の人々の手で」という部分があります。この本のように家族だけでは介護が難しくなった時、デイサービスの利用や老人ホームへの入所をしなければならないかもしれません。私の曾祖母も今は祖父母と自宅で暮らしていますが、今後認知症の症状がもっと進んだり、体が動かなくなったら自宅での介護は難しくなるかもしれません。地域全体で支えていくことの大切さを学ぶことができました。

全ての人は年をとります。介護を受けなければならないかもしれません。そのことを頭において高齢者の方と接していかなければならないと思いました。全ての人が楽しい老後を過ごすためには、全ての人が一丸となって支えていく必要があると、この本から学びました。

高齢介護課（内線 183）

ズームアップ！ 健康づくり

肺がん検診、
受けていますか？

●肺がんは、死亡数が男女合わせて一番多いがんです

日本人のがんによる死亡数の第一位は肺がんです。初期には自覚症状がほとんどないのが肺がんの怖さです。

ただし、早期に発見すれば生存率が高いがんです。

●予防と検診

がん予防には禁煙や節度のある飲酒、バランスのよい食事、身体活動、適正な体型、ウイルスや細菌からの感染予防などが効果的と言われています。この機会に普段の生活を見直してみませんか。

また、早期発見のために40歳以上の人は1年に1回、肺がん検診を受けましょう。

●肺がん検診では二重読影が国の基準で定められています

肺がん検診では胸部エックス線検査（レントゲン検査）をします。

肺がんの影を見落とさないために、二重のチェック体制（二重読影）が国の基準で定められており、検診では、胸部レントゲンのフィルムを二人の医師が別々にじっくり調べることになっています。

●肺がん検診を受けるには

本市では満40歳以上であれば、4月～翌年3月の年度内に1回、無料で検診を受けることができます。検診を希望する人は保健センターへお申し込みください。

※実施医療機関や集団検診の日程など詳しくは、4月号広報に折り込みの「令和2年度保健事業案内」をご覧ください。市ウェブサイト（健康づくり推進課のページ）からも確認できます。

●肺がんと喫煙

喫煙は吸っている本人の肺がんリスクを高めるだけでなく、たばこの先から出る煙を吸い込むこと（受動喫煙）で喫煙者の周囲の人も肺がんリスクが高くなります。

望まない受動喫煙を防止するため、今年4月に改正健康増進法が全面施行され、さまざまな施設において屋内が原則禁煙となっています。

喫煙中の人は自分や家族のために、ぜひ禁煙に挑戦してみてください。

また、保健センターでは禁煙相談も実施していますので、ご利用ください。

健康づくり推進課 ☎(28)55520

